

1. 学んだこと

1 番大切なのはコミュニケーションである。コミュニケーションをとることによって生徒のことを理解できるようになるからである。これは普段の学校生活だけでなく、授業においてもいえることであり、日にちが経っていくにつれて意欲的に参加してくれる生徒が多くなったように感じた。授業中に生徒が答えてくれことに対して、一方的に聞くだけでなく、答えることも重要である。生徒が答えてくれた・質問してくれたことに対して何も反応を起こさなければ、次からの生徒の授業意欲が下がってしまうため、出来るだけ答えるという姿勢を持つことが大切だと思った。しかし、答えられない場合もあるため、その時は有耶無耶にしてしまうのではなく、私自身もわからないということを伝えて、後日に伝えるという工夫をすることで生徒の学習への好奇心を潰さないように出来ると感じた。また、出来るだけ名前を覚えることを心掛けるべきだと思った。自身が生徒の立場だった時に名前を覚えてもらっていると「この人は私のことをちゃんと見ていてくれる先生だな」と感じたので、担当クラスの生徒達はもちろんのこと、他クラスでも関わりの多い子達は出来るだけ覚えるようにした。実際に名前で呼んで接すると、生徒から積極的に話しかけてくれるようになり、生徒たちとの距離感が縮まったように思える。

2. 反省点

担当科目(理科)に対する自身の知識が足りなかったと強く感じた。生徒がどのくらいの知識を持っているか分からずに教材研究を進めてしまい、生徒主体の授業をあまり作れていなかった。私は 2 度実験の授業を行ったが、生徒に考察を考えてもらおう際、以前までに習った知識を引き出して考えてもらいたかったが、説明がうまく行かずに知識と結びつけて考える生徒が少なかったため、もう少し工夫して行えていればよかったと反省した。また、私は緊張してしまうことが多く、一度言い間違えをしてしまうと上手く説明することができなくなってしまっていたので、自分が思っている以上に時間をかけて授業の喋り方を練習する必要があった。1 回目の実験の予備実験を行った時に上手くいったのにも関わらず、実際の授業では失敗に終わってしまったクラスもあったので、予備実験は成功しても何度も行って、生徒がやりやすい環境をつくることで、円滑に授業を進めることに繋がると感じた。

3. 改善点

教材研究にもっと時間をかけるべきであった。教育実習生として生徒とコミュニケーションを取ったりすることももちろん大切であるが、そこに注力しすぎるのではなく、学習面

に力を入れることで生徒の学びの視野が広がるからだ。そのため、普段先生方が行わないような教育実習生ならではの（ゲームで学ぶ・学校探索）の授業を通して、生徒の理科への興味を引き出せばよかったと思った。また、グループワークを行うことが多かったが、その際にぐだぐだとした雰囲気になってしまうことが多く、的確な指示を行ったり、机間指導をより重視すれば改善できたと感じる。教科書に沿った内容にするのではなく、自分なりの工夫をたくさん盛り込めれば、さらに良い授業を作れていたと思う。